

平成30年

な か た に

中谷自治センターだより

～私達の中谷、「今」。
そして未来へ～

10月

発行者：中谷自治センター
センター長：渡辺 光一
電話番号：0247-26-1457
FAX：0247-26-3068

<今月の予定>

日	月	火	水	木	金	土
	1	2 ・ニコニコ会打合せ(4班) 19:00 ・文化祭第1回実行委員会 19:00	3	4 ・高齢者運動教室 9:00	5 ・子育てサロン 9:00 ・パソコン教室 13:30	6
7 ・いしかわスキップズ広場 10:00	8 体育の日	9 ・ニコニコ会 10月例会(4班) 9:30	10 ・企画推進委員会 19:00	11 ・高齢者運動教室 9:00	12 ・子育てサロン 9:00 ・男の料理教室 10:00	13 ・学石生清掃ボランティア 9:30
14 ・石川町産業交流祭 9:00	15	16	17 ・文化祭第2回実行委員会 19:00	18 ・高齢者運動教室 9:00 ・地域福祉ネットワーク講演会 18:30 ・レディースセミナー 19:00	19 ・子育てサロン 9:00 ・パソコン教室 13:30 ・防犯パトロール 18:00	20 ・親と子の読書会 16:00
21 ・久之浜漁港まつり 9:00 ・いしかわスキップズ広場 10:00	22 ・休館日	23	24	25 ・高齢者運動教室 9:00 ・文化祭役員会 19:00	26 ・子育てサロン 9:00	27
28	29	30	31			

おかげさまで 30年7月11日で開店三周年 あなたの健康を第一に!



手作り
惣菜・弁当
オードブル

食彩 あすか

予約電話・ファックス 0247-26-8588

店頭販売

水・木・金
11:00 ~ 17:00



自治協議会からのお知らせ

- ・文化祭最終打合せ 11月1日 19:00 ~
- ・中谷地区総合文化祭 11月3日・4日

☆熱心に議論 第2回理事会☆

8月31日、第2回理事会が開催され、第1回理事会にて配布し、検討してきた地区計画について議論した。中谷地区の現状では、福交バス「石川～鴛子線」の利用者がいないのでは、イノシシ対策電気柵設置の負担率のアップ等農業問題は今後町との協議が必要、地区計画では、伝統芸能の伝承で子供が少なく伝承に苦労している。地区全体で取組む必要あり。計画の推進の中では、町6次総合計画の中でのまちづくりの予算は、自治協議会役員の手当の問題が出されて今後、問題を整理して地区計画を作成して行く事となります。



☆ミニ集会「社会を明るくする運動」☆

9月4日、更生保護女性会会員11名にて、ミニ集会が開催された。集会前に自治センター外部花壇の除草を実施しました。保護司、岡部弘一さんの講演を聞いた後、DVDにて保護観察を受けた若者が、保護観察協力雇用主に雇用され、雇用主、先輩達に可愛がられて、真面目に働き更生していく様子のビデオでしたが、現実には再犯率も高くビデオのように更生していく事はまれだそうです。更生保護女性会活動と更生保護とは、非行や犯罪に陥った人達が再び社会の一員として、立ち直るのを助けようという制度です。更生保護への理解と協力を得るための運動を展開しつつ、広く社会の方々に更生保護の心を伝え、地域に更生保護の土壌を創りあげるために活動しています。



☆「中田のささら」奉納される☆

石川町指定無形民俗文化財の「中田のささら」が9月9日、雨天のため旧中二小体育館にて執り行われた。当番組、大塚組にて子供達による「三匹獅子舞」の「山」という演目が奉納され、昭和57年以来の全演目の発表となりました。小学生の皆さん練習お疲れさまでした。大人による「四方固め」・「前差し神楽」・「鈴之段」・「あばれ神楽」を奉納し、天下泰平、五穀豊穡、家内安全、厄難災除を祈願しました。



☆3班による ニコニコ会9月例会☆

9月11日、3班による9月例会が会員23名の参加により開催された。いわき労災病院の先生による、①放射線と健康について、②長寿者の環境、③健康寿命を延ばす生活習慣、④今日からできる! 寝たきりにならない生活習慣等の「健康寿命」なるほど! 納得! 健康寿命を延ばすコツの講話を楽しく聞いた後、「エミフラダンス」の皆さんによる踊りと、故坂本九さんが歌った「見上げてごらん夜の星を」をアレンジした振り付けの踊りを、会員の皆さん全員と踊り楽しい時間を過ごしました。



中谷地区敬老会開催される

第67回中谷地区敬老会が出席者168名により、9月23日自治センター体育館で開催された。塩田町長、大和田実行委員長の主催者挨拶で始まり、75歳到達者48名には敬老祝い金、88歳到達者24名には特別敬老祝い金、80歳到達者29名には長寿座布団が代表者の方に贈呈された。アトラクションでは、「学石高チェアリーダー部」の皆さんによる元気いっぱいなダンス、「声玄会」の皆さんによる民謡、三味線合奏、「芳柳流すみれ会」の皆さんによる踊り、「ハイビスカス」の皆さんによるフラダンスと今年も元気を頂くことが出来ました。ボランティア、実行委員の皆さんご協力頂きありがとうございました。



中谷の民話 《昔 話》

竹の花千手観音のこと

うっそうとした杉木立ちの中に竹ノ花千手観音堂がある。堂宇は三間半四面で大同二年（807）の創建といわれている。本尊は千手観音で厨子に収められており本堂の彫刻などは相当に手のこんだ彫りである。この観音堂の由来については明らかではないが古老の伝える所によれば、この堂の下方に南条家があってその氏神様としてまつたのが始めだという。

南条家の向いに大石があって毎晩ボナッタのでさびしくなり川向に引越したのが現在の南条利助氏(本家)、同正雄氏(二番家)、同仲一氏(三番家)であるという。したがって観音様はこの三家の氏神として長くまつっていたが靈験新たということから参詣する人が多く、やがて谷地部落に差出し谷地共有のものとなったという。

昔時は馬の守護神としての信仰が厚く四月十四日の縁日ともなれば馬が行列し、堂の下には九十九の賭場が開帳されたという。参道には差渡し一丈ほどの爺杉と婆杉があったし、参道を登りつめた所には古い垂桜が道も狭しと咲き乱れていたという。古杉には珍しい「てん」もいたという。

堂宇の右側が白華山正法寺の跡である。初め正法寺は住僧が居て寺守をしていたが文政文化(1810～)頃から無住になったので取り壊し観音堂は坂路の惣徳寺にその管理を委せた。惣徳寺もその後廃寺となってからは石川乗蓮寺に委託して今日に至っている。境内右側にある旧墓地は南条家のものである。また堂の軒下につるしてある鐘はもともとこの観音様のものであったが第二次世界大戦中に戦時物資として供出したが、たまたま終戦後某氏が古物商より買受け双里の半鐘としていたが鐘の刻名から谷地観音堂所有であることを森光吉氏がみつけ、再びここにもどってきたものである。